鳥取新報

第261号　令和 5年5月版

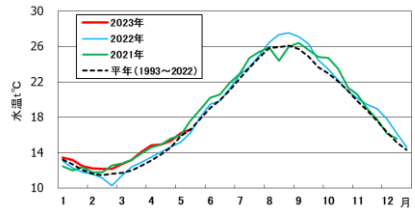
掲載期間　R5.5月下旬
～R5.6月中旬

発行　鳥取県水産試験場（電話：0859-45-4500）

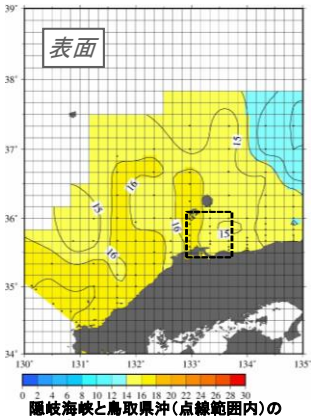
鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター　沈砂槽
（電話：0858-34-3321）

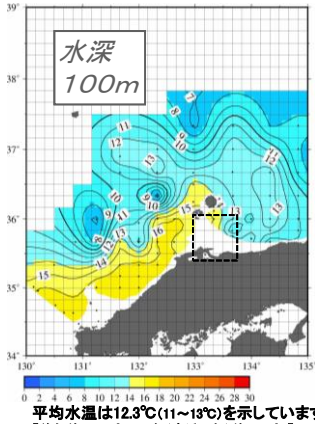
５月中旬　１６．６℃
平年と同じ水温



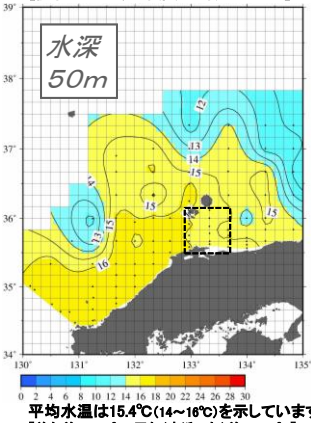
試験船による海洋観測結果（5月下旬）



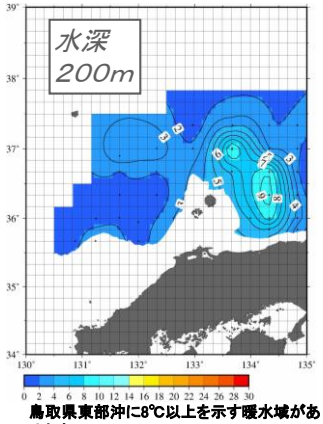
隠岐海峡と鳥取県沖（点線範囲内）の平均水温は15.7℃（14～16℃）を示しています。
【前年差：-0.3℃、平年（直近30年）差：+0.12℃】



平均水温は12.3℃（11～13℃）を示しています。
【前年差：+0.28℃、平年（直近30年）差：-1.1℃】

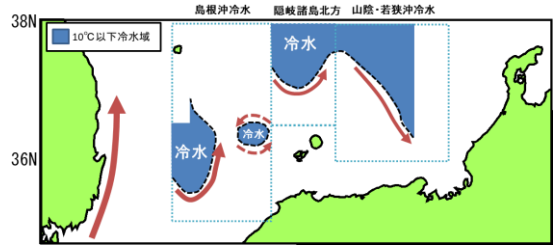


平均水温は15.4℃（14～16℃）を示しています。
【前年差：+0.79℃、平年（直近30年）差：+0.88℃】



鳥取県東部沖に8℃以上を示す暖水域があります。

5月下旬の水塊配置と対馬暖流



島根沖冷水	山口県沖N35°30′以北に10℃以下の冷水域、島根県沖N36°30′付近に冷水塊が認められます。
隠岐諸島北方の冷水域	隠岐諸島北方N37°以北に10℃以下の冷水域が認められます。
山陰・若狭沖の冷水域	局所的に、丹後半島沖N36°20′以北まで10℃以下の冷水域が接岸しています。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい、一部が山口県沖の冷水域に沿って北方に流れると考えられます。また、島根沖の冷水塊周辺には反時計回りの流れが生じると考えられます。主流の一部は、隠岐諸島北方と山陰・若狭沖の冷水に沿って流れ、丹後半島に向かい南東方向へ流れると考えられます。

＊県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ（鳥取県水産試験場で検索してください）に詳しく掲載しています、是非ご利用ください。

水産試験場

令和4年度版海洋環境・水産資源レポートを作成しました

本県のまき網漁業（アジ、サバ、イワシ、マグロ等）、沖合底びき網漁業（ハタハタ、カレイ類、ズワイガニ等）、沿岸漁業（サワラ、キジハタ、アワビ、ナマコ等）などで漁獲される各魚種の漁獲状況や今後の資源動向、水温や潮流等の海洋環境について皆さんにより理解を深めて頂けるよう、水産試験場と栽培漁業センターで令和4年度版の海洋環境・水産資源レポートを作成しました。

また、トピックとして、栽培漁業センターからは「天然ムラサキウニの季節毎の成熟変化（身の状態）」や、「サザエの砂抜き処理」、水産試験場からは「境港のアオナマコの資源管理」、「2023年春のハタハタの不漁について」直近の調査や報告を記載しております。

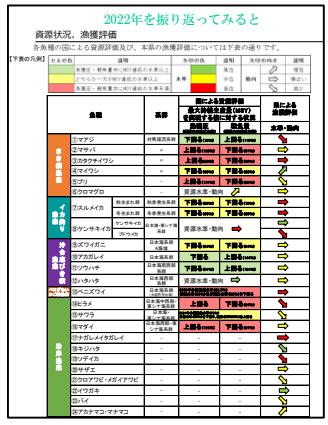
冊子は、各漁協・支所等に配布しますが、水産試験場のホームページにも掲載していますので、気になる各魚種の漁獲動向等、日頃の業務の参考にぜひご覧ください。

【水試ホームページQRコード】

水産試験場ホームページURL（https://www.pref.tottori.lg.jp/101125.htm）

【表紙】

【漁獲評価一覧（2ページ目）】



水産振興課・漁業調整課

～アフターコロナ～
浜のイベントが各地で続々と再開！！

【夏泊朝市】

5月13日（土）、鳥取市夏泊漁港で白いかやマアジ等の朝どれの定置ものの魚介類を販売する夏泊朝市が4年ぶりに開催され、地元客を中心に賑わいました。

夏泊朝市は、県漁協夏泊支所で定置網漁業が開始されたのを機に、地元を活気づけることを目的に漁業者やその関係者が平成26年に始めました。毎年、定置網漁が始まると、1-2週間おきに土曜日に開催されていましたが、コロナ禍の影響で令和2年からは休止していました。

この日は再開を待ちわびていたお客さんが開始30分前から行列を作り、新鮮な白いかやマアジ等を袋いっぱい買って行かれました。夏泊支所運営委員長の遠藤通さんは、「皆さんのおかげでやっと久しぶりに開催することが出来た」と喜んでいました。

今後は5月27日（土）、6月10日（土）、6月24日（土）に開催される予定です。

開会の挨拶をする遠藤運営委員長

来場者で賑わう売り場

【さかいみなと中野港漁村市】

5月13日（土）に第1回が開催され、雨がちらつくあいにくの天気でしたが、約1，200名が来場しました。

美保湾のウマヅラハギ、レンコダイ、バイ、シラスなどに加えて、今回の目玉は境港サーモンの試食販売で、用意された300尾が飛ぶように売れました。また、境港総合技術高校が鮮魚販売の支援、実習製品販売に加えて、小型の境港サーモンを有効活用したサーモンフライバーガーをキッチンカーで販売しました。水産事務所と水産試験場も微力ながらスタッフとして参加しています。

今年は6月、7月、9月の第二土曜日に開催が予定されています。

新鮮な魚介類を買い求める来場者

キッチンカーでの販売の様子

栽培漁業センター

令和5年度の美保湾ヒラメ種苗放流の実施

令和5年4月10日（淀江支所・米子市漁協））および4月14日（境港支所）に、美保湾地域栽培漁業推進協議会によるヒラメの種苗放流（平均全長97mm、6万尾）が実施されました。

種苗放流事業は、適地に適正なサイズを放流することが高い回収率につながります。美保湾はヒラメの餌が豊富であり、ヒラメ種苗を魚食性に転換する80mm以上になるまで育成して放流することで平均（07-19年）12.2%という高い回収率を維持しています。

（2022年12月末時点）

	放流尾数（尾）	回収尾数（尾）	回収率	追跡必要年数
2007年放流群	60,700	9,802	16.1%	完了
2008年放流群	61,100	2,120	3.5%	完了
2009年放流群	57,100	2,069	3.6%	完了
2010年放流群	68,610	10,707	15.6%	完了
2011年放流群	56,500	5,858	10.4%	完了
2012年放流群	63,000	11,612	18.4%	完了
2013年放流群	76,000	7,982	10.5%	完了
2014年放流群	30,000	4,231	14.1%	完了
2015年放流群	60,000	7,234	12.1%	完了
2016年放流群	60,000	5,839	9.6%	完了
2017年放流群	60,000	9,703	16.1%	完了
2018年放流群	60,000	8,786	14.6%	完了
2019年放流群	60,000	8,073	13.5%	ほぼ完了
2020年放流群	60,000	3,339	5.6%	あと1年
2021年放流群	60,000	1,442	2.4%	あと2年
2022年放流群	60,000	5	0.0%	あと3年
07-19平均	59,462	7,232	12.2%	

漁船でヒラメを放流地点まで運搬します

令和５年４月から下記２社の広告を１年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本　　社　山口県下関市小月小島2丁目3-17　〒750-1136
電話 083-282-4041（代表）FAX 083-282-0424
境港営業所　鳥取県境港市栄町67番地　〒684-0006　電話 0859-44-0475　FAX 0859-42-6330

潮に夢を
共和水産株式会社
代表取締役　前橋　知之
〒684-0006　鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171（代）　FAX 0859-42-6530